



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：サウジソブリン債の格付け

(8月8日付アラブ・ニュース紙)

8日付現地アラブ・ニュース紙は、サウジ政府債・サウジ政府機関債であるソブリン債についての Standard & Poors 社(S&P)の発表を報じている。概要は以下の通り。

1. S&P社はサウジの自国通貨建て及び外貨建てソブリン債の格付けについて、引き続き長期債にはAA-、短期債にはA-1+を適用し、その見通しは「安定的である」と発表した。
2. この要因には、サウジ政府には対外債務がないこと、豊富な原油収入があること、外貨資産を管理するサウジ通貨庁が慎重な運用を行ってきたことなどが挙げられる。
3. S&Pの債券アナリストであるファルーク・ソーサ氏は「サウジのソブリン債の格付けは、サウジ政府の外部および財務的ポジションが極めて堅調であることに対する我々の考えの表れである」、「金融危機の影響を被った市場企業を守るため、インフラ支出を中心とする大幅な財政支出を可能とする経常黒字を評価している」と述べた。
4. サウジソブリン債の格付け上昇を制限しているのは、湾岸諸国に共通している地政学リスクである。

※注：現在の湾岸諸国のS&P格付け（自国通貨建て長期債）はアブダビ首長国がAA、バハレーンがA、クウェイトがAA-、オマーンがAとなっており、日本はAAとなっている。